

年間授業計画 様式例

神代 高等学校 今年度（3 学年用） 教科 公民 科目 政治・経済

教科：公民 科目：政治・経済

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（『詳述 政治・経済』（実教出版））

教科 公民 目標：

【知識及び技能】選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理。政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 政治・経済 目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、表現可能性などを指標として議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 現代日本の政治 【知識及び技能】 ・現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・政党政治などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	・指導事項 ・民主政治の基本原則 ・日本国憲法の基本的性格 ・日本の政治機構 ・現代日本の政治 ・教材 教科書、副教材、自作プリント等 ・一人1台端末の活用 等 ・プレゼンテーションで活用する ※科目の特性上、時事動向や生徒の関心の状況に応じ、指導計画を変更したり、指導事項の重点化を図る場合がある。 ※「現代日本における諸課題の探究」については、通年の探究プレゼンテーションおよびレポートで扱う。	【知識・技能】 ・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・政党政治などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・よりよい社会の実現のために、民主政治の基本原則とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。	○	○	○	13
	B 単元 現代日本の経済 【知識及び技能】 ・経済活動について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・経済活動について多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	・指導事項 ・経済社会の変容 ・現代経済のしくみ ・現代経済と福祉の向上 ・教材 教科書、副教材、自作プリント等 ・一人1台端末の活用 等 ・プレゼンテーションで活用する ※科目の特性上、時事動向や生徒の関心の状況に応じ、指導計画を変更したり、指導事項の重点化を図る場合がある。 ※「現代日本における諸課題の探究」については、通年の探究プレゼンテーションおよびレポートで扱う。	【知識・技能】 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・経済活動について多面的・多角的に考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して、経済社会の変容における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために、経済社会の変容とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。	○	○	○	15
	C 単元 現代の国際政治 【知識及び技能】 ・現代の国際政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	・指導事項 ・国際政治の特質と国際法 ・国際連合と国際協力 ・現代国際政治の動向 ・核兵器と軍縮 ・国際紛争と難民 ・国際政治と日本 ・教材 教科書、副教材、自作プリント等 ・一人1台端末の活用 等 ・プレゼンテーションで活用する ※科目の特性上、時事動向や生徒の関心の状況に応じ、指導計画を変更したり、指導事項の重点化を図る場合がある。 ※「現代日本における諸課題の探究」については、通年の探究プレゼンテーションおよびレポートで扱う。	【知識・技能】 ・現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際政治における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	13
2 学 期	D 単元 現代の国際経済 【知識及び技能】 ・現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	・指導事項 ・商品・資本の流れと国際収支 ・国際経済体制の変化 ・グローバル化と金融危機 ・地域経済統合と新興国の台頭 ・地球環境とエネルギー ・経済協力と人間開発の課題 ・教材 教科書、副教材、自作プリント等 ・一人1台端末の活用 等 ・プレゼンテーションで活用する ※科目の特性上、時事動向や生徒の関心の状況に応じ、指導計画を変更したり、指導事項の重点化を図る場合がある。 ※「現代日本における諸課題の探究」については、通年の探究プレゼンテーションおよびレポートで扱う。	【知識・技能】 ・現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際経済における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために、現代の国際経済とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。	○	○	○	15
				○	○	○	1
				○	○	○	1
							合計 60

神代 高等学校 今年度（3 学年用） 教科 理科 科目 物理

教 科： 理科 科 目： 物理 単位数： 6 単位

対象学年組：第 3 学年 選択者

使用教科書：（ 改訂版 総合物理 1 力と運動・熱（数研出版） 改訂版 総合物理 2 波・電気と磁気・原子（数研出版）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができる

習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる
思考力・判断力・表現力などを身につけている。

知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、
粘り強く学習に取り組み、自ら学習を調整しようとする姿勢を持っている。

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理現象の名称や原理の概念的な理解、四則演算の計算能力が身に付いている。 実験操作の基本的な技術の習得ができる。	習得した「知識・技能」を活用して基礎的な計算問題から入試問題まで解決できる 思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、 複雑な計算問題にも粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	A 物理量の扱い方	・有効数字、誤差、指数 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・物理量の表し方について理解する。 ・物理量の測定における誤差、有効数字の扱い方について理解する。 【思考・判断・表現】 ・人が歩く運動を調べたデータをグラフにまとめ、グラフを見てわかることを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・人が歩く運動を調べたデータからグラフを主体的に作成し、まわりの人と話しあって、グラフを見てわかることを考えようとしている。	○	○	○	1
	第1章 運動の表し方 A 速度	・速度の合成・相対速度 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・物体の速さの式を理解している。 ・等速直線運動の式およびx－t図、v－t図を理解できている。 ・物体の運動を表すには向きが必要であり、速さと速度、移動距離と変位の違いを理解している。 ・平均の速度と瞬間の速度の違いを理解している。 ・直線上、平面上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 【思考・判断・表現】 ・等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。 ・動く観測者から見た場合の、観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。 ・速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日常の運動から、速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。	○	○	○	2
	B 加速度	・平面運動での加速度 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。 ・等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができる。 ・斜面上を降下する台車の運動を記録タイマーで調べ、得られた結果からグラフを作成し、加速度を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・等加速度直線運動する物体のようすについて説明できる。 ・加速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 ・斜面上を降下する台車の運動を記録タイマーで調べ、加速度が一定であることを考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・p. 27図16のように、スタート直後の速さの比較によって、加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。 ・斜面上を降下する台車の運動を調べる実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	2

C 落体の運動	・水平投射、斜方投射 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・自由落下や鉛直投射において、与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる。 ・自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であることを理解している。 ・水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を運用できる。 ・斜方投射は鉛直方向には鉛直投げ上げ、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を運用できる。 ・記録タイマーを正しく用いて、重力加速度の大きさを測定し、9.8m/s^2前後の値になることを確認することができる。 ・水平投射について、初速度を変えても同時に落下することを確認し、理解できている。 ・動く発射台から小球を投射する実験を行い、斜方投射は、鉛直方向には鉛直投げ上げ、水平方向には等速直線運動をしていることを確認することができる。 【思考・判断・表現】 ・斜方投射の運動のようすを、鉛直方向と水平方向に分けて説明できる。 ・重力加速度の意味を正しく理解し、落下する物体の運動のようすを考えることができる。 ・斜方投射について、例題6で求められる水平到達距離の式の意味を理解し、説明することができる。 ・重力加速度の大きさを測定し、文献などで調べた値と比較し、文献値と測定値の間に生じた誤差の原因について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・落体の運動、特に水平投射、斜方投射について、物体の運動はどのようにしているか理解しようとしている。 ・重力加速度の大きさを測定する実験や、水平投射・斜方投射の運動のようすを確認する実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	2
第2章 運動の法則 A 力とそのはたらき	・力の作用 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について、理解できている。 【思考・判断・表現】 ・フックの法則とばね定数の意味を理解し、グラフからばね定数を読み取ることができる。 ・重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり、運動の状態によらないことを説明できる。 ・力の表し方を理解し、「1N」はどのような力か説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・見ること、触ることができない「力」に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。	○	○	○	1
B 力のつり合い	・作用反作用、力のつり合い ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。 ・注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式が立てられる。 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力を区別して考えることができる。 ・3つの力がはたらいてつりあうときの力の関係を確認でき、理解できている。 ・ばねにつなかれた棒が取りつけられた台車を用いて、作用反作用の法則が成りたつことを確認できる。 【思考・判断・表現】 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力の違いを理解し、力のつりあいの式を考えたり、それぞれの2力の間の関係について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・力が合成・分解して表されることに興味をもち、「力がつりあう」とはどういうことかを理解しようとしている。 ・「作用・反作用」と「つりあい」の2力との違いについて、考えようとしている。 ・力のつりあいや作用反作用の法則を確かめる実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	2

C 運動の法則	・慣性の法則、運動方程式 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・物体が力を受けるとき（あるいは受けないとき）、運動状態はどのようになるか、逆に、物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。 ・さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる。 ・力学台車に力を加えるとき、どのような運動となるかを実験で調べることができ、データにまとめることができる。 【思考・判断・表現】 ・慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。 ・運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとしている。 ・力学台車に力を加えるときの運動を調べる実験に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	2
D 摩擦を受ける運動	・静止摩擦力、最大摩擦力、動摩擦力 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは2物体間の面の状態を表す静止摩擦係数μと、垂直抗力Nとの積で表されることを理解している。 ・静止摩擦力を用いた力のつりあいの式を立てたり、動摩擦力を用いた運動方程式を立てることができる。 【思考・判断・表現】 ・摩擦力がどのような力かを理解し、運動を妨げる向きにはたらく運動について考えることができる。 ・物体にはたらく摩擦力について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・摩擦力がないときと比較するなどして、どのようなときに静止摩擦力や動摩擦力が現れるか、またそのときの物体の運動について、興味・関心をもち考えようとしている。	○	○	○	2

E 液体や気体が受ける力	・気圧、水圧、浮力、空気抵抗 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・圧力を求める式を理解できている。 ・水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。 ・水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 【思考・判断・表現】 ・水中にある物体には、どのような水圧が加わるか、またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日常の現象などを通して、水中や空気中で圧力があることに関心を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか、そもそも圧力とは何か、ということを考えようとしている。	○	○	○	2
F 剛体にはたらく力のつりあい	・モーメント、重心の位置、偶力、傾く条件 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・力のモーメントについて理解している。 ・剛体のつりあいでは、並進運動をしない条件と回転運動をしない条件が必要なことを理解している。 ・剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる。 ・偶力のモーメントを求めることができる。 ・与えられた剛体（または物体系）の重心を求めることができる。 ・剛体の転倒する条件を理解している。 【思考・判断・表現】 ・力のモーメントの式を理解し、うでの長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる。 ・剛体にはたらく力がつりあうための2つの条件を理解し、はたらく力の間の関係について説明できる。 ・剛体の転倒する条件を理解し、重心の位置と転倒のしやすさの関係を説明できる。 ・力のモーメントの基準点を適切な位置にとり、剛体の転倒について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・剛体のつりあいには、並進運動をしない条件だけではなく、回転運動をしない条件が必要なことを理解しようとしている。 ・剛体が傾く条件や転倒する条件を理解しようとしている。	○	○	○	3
第3章 仕事と力学的エネルギー A 仕事	・仕事、仕事率 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・仕事、仕事率を計算して求めることができる。 ・物体に対して力がはたらいていても、仕事は0のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。 ・「仕事の原理」を仕事を計算して求めたものを比較することにより、理解している。 ・仕事率Pは「W/t」だけでなく、「$F \cdot v$」でも求められることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・物体に対して力がはたらいていても、仕事は0のときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。 ・「仕事の原理」を理解し、道具を用いたときに必要な仕事はどうなるかを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。	○	○	○	1
B 運動エネルギー	・運動エネルギー ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・運動エネルギーが$\frac{1}{2}mv^2$であることを理解している。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。 【思考・判断・表現】 ・運動エネルギーがどのようなものかを理解し、説明できる。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを用いて、物体の運動を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・運動している物体は、どのようなエネルギーを持っているかについて興味をもち、考えようとしている。	○	○	○	1

1 学 期	C 位置エネルギー	- 位置エネルギー - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 重力による位置エネルギーを計算することができる。 - 弾性力による位置エネルギーを計算することができる。 - 物体が基準点まで移動するときに保存力がする仕事、位置エネルギーであることを確認できる。 【思考・判断・表現】 - 状態が異なる場合の位置エネルギーを、比較して考えることができる。 - 重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 位置エネルギーは、運動エネルギーのように動きがあり目立つものではないが、仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち、理解しようとしている。	○	○	○	1
	D 力学的エネルギー	- 力学的エネルギー保存則 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。 - 物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解している。 - 力学的エネルギー保存則が成りたつための条件が整っているかどうかを判断できる（→保存力以外の力が物体に対して仕事をしない）。 【思考・判断・表現】 - 力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。 - 力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体のもつ運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとしている。	○	○	○	2
	第4章 運動量の保存 A 運動量と力積	- 運動量、力積、 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 運動量と力積について、求め方を理解している。 - 運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している。 - 直線運動の場合だけでなく、平面運動での運動量と力積との間に成りたつ関係式をベクトル図から考えることができる。 【思考・判断・表現】 - 運動量の変化と力積の関係式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 物体の運動について、運動量と力積を用いて理解しようとしている。	○	○	○	2
	B 運動量保存則	- 斜めの衝突、物体の分裂 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 直線運動、平面運動における運動量保存則を式で表現することができる。 【思考・判断・表現】 - 運動量保存則が成りたつ条件を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 身のまわりにある物体どうしの衝突の際に、衝突の前後で変わらない量があり、それが運動量であること、また運動量が衝突の前後で保存する条件を理解しようとしている。	○	○	○	2
	C 反発係数	- 反発係数、衝突の種類 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 反発係数の式を用いて、衝突する物体の運動を調べることができる。 - 小球と床との間の反発係数は、衝突の前後における相対速度の比の絶対値で定義されること、またそれは落下距離と床に衝突した後の上昇距離との比の平方根に等しいということ理解している。 - 斜め衝突について理解している。 - 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる。 - 弾性衝突以外の衝突では、力学的エネルギーが保存されないことを理解している。 【思考・判断・表現】 - 反発係数と運動量、力学的エネルギーの関係を説明することができる。 - 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求め、物体の運動を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1

A 等速円運動	- 物体の速さ、角速度、回転数、加速度の向き - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 等速円運動をしている物体の回転の速度、角速度、周期、回転数の諸量の定義が理解できている。 - 等速円運動するのに必要な向心力を理解し、運動方程式を立てられる。 【思考・判断・表現】 - 等速円運動の中心方向の運動方程式から、物体の運動を考えることができる。 - 一定の半径で等速円運動する物体の速さと物体にはたらく向心力の大きさの間の関係を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 等速円運動する物体には、どのような力がはたらくかを理解しようとしている。	○	○	○	3
B 慣性力	- 慣性力 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 慣性力を含めたつりあいの式を立てることができる。 - 遠心力が慣性力の一種であることを理解し、遠心力を含めたつりあいの式を立てることができる。 【思考・判断・表現】 - 慣性力とその他の力の違いについて理解し、説明できる。 - 遠心力を用いて、円運動する物体にはたらく力のように考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 電車などの乗りものが急発進をしたり、急ブレーキをかけたりするとき、車内の人に現れる力の原因について、理解しようとしている。	○	○	○	3
C 単振動	- 単振動、ばね振り子、単振り子 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解している。 - ばね振り子の周期を表す式を導く過程を理解し、周期や振幅、最大の速さを求めることができる。 - 単振り子の周期を表す式を導く過程を理解し、周期を求めることができる。 【思考・判断・表現】 - 単振り子の周期の式を用いて、重力加速度の大きさが異なる場所での運動のようすを考えることができる。 - ばね振り子や単振り子の周期の式を用いて、周期と質量や周期と糸の長さの間の関係について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 往復運動の一つである単振動について、運動（振動）の最中、速度や加速度がどのように変化しているか、また周期はどのようにすれば変化するのかということを理解しようとしている。	○	○	○	3
D 万有引力	- ケプラーの法則、力学的エネルギー保存、第二宇宙速度 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - ケプラーの法則を理解している。 - 万有引力の式を理解している。 - 万有引力の位置エネルギーの式を用いて、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる。 【思考・判断・表現】 - 万有引力の式を用いて、異なる惑星の表面上での重力加速度の大きさを比較することができる。 - 静止衛星とは何かを理解し、衛星の高度と周期の間の関係を説明できる。 - だ円運動する惑星の運動について説明できる。 - 無限遠を基準とした万有引力の位置エネルギーについて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 惑星や人工衛星が万有引力によって運動を続けていることや、その運動のようすについて理解しようとしている。	○	○	○	3

第1章 熱と物質 A 熱と物質の状態	・ブラウン運動、比熱、熱容量、潜熱、状態変化 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。 ・熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 ・物質が、固体→液体、液体→気体になる際の、熱のやりとりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。 ・温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。 ・水の状態図から情報を読み取り、日常的な事象について理由などを推測し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。	○	○	○	2
B 熱と仕事	・熱とエネルギーの関係 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・仕事と熱の関係について理解している。 【思考・判断・表現】 ・日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。	○	○	○	1
第2章 気体のエネルギーと状態変化 A 気体の法則	・ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・気体の圧力を求める式を理解できている。 ・ボイル・シャルルの法則を用いて、状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求めることができる。 ・理想気体の状態方程式を用いることができる。 【思考・判断・表現】 ・ボイル・シャルルの法則を用いて、日常に即した課題について考察することができる。 ・気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・気体の圧力や体積、温度を変えるとき、これらの量の間にどのような関係が成りたっているかを理解しようとしている。	○	○	○	1
B 気体分子の運動	・気体の分子運動論、平均運動エネルギー ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる。 ・気体分子の平均運動エネルギーが絶対温度と関係あることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・壁に分子が衝突することから分子の運動量の変化、壁が受ける力積から壁が受ける圧力を考察し、理想気体の気体分子の速度と圧力の関係について説明できる。 ・平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・気体の分子がもっている質量、速度、運動量などのミクロな量と、気体の圧力などマクロな量がどのような関係にあるか興味関心をもち、理解しようとしている。	○	○	○	1

C 気体の状態変化	- 内部エネルギーの総和、熱力学第一法則、不可逆変化、サイクルの熱効率 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解できている。 - 熱力学第一法則について理解している。 - 気体の状態変化の、「定積変化」、「定圧変化」、「等温変化」、「断熱変化」を、それぞれ p–V 図や式で表すことができる。 - 気体のモル比熱について理解し、マイヤーの関係やボアソンの法則を適切に用いることができる。 - 熱機関のモデルとして、サイクルの状態変化を理解し、熱効率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 - 気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる。 - 定積モル比熱と定圧モル比熱の違いを正しく理解し、2つの間に成りたつ関係について説明できる。 - 熱機関のしくみを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのかを理解しようとしている。	○	○	○	2
D エネルギーの移り変わり	- エネルギーの種類 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している。 【思考・判断・表現】 - ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 太陽電池などでどのように電気エネルギーを得ているのかを主体的に考えることができる。	○	○	○	1
第1章 波の性質 A 波と媒質の運動	- 波を表す要素、振動の方向 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 波の発生原理や基本事項を理解している。 - 縦波と横波の違いを理解している。 - 縦波を横波の形で表現できている。 【思考・判断・表現】 - 波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 - 波の基本事項について説明できる。 - 与えられた情報を正しく読み取り、問いに答えられている。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。	○	○	○	1
B 正弦波の式	- 正弦波の式 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 位相のずれや進行方向の違いなども考慮して、正弦波の式を正しく表すことができる。 【思考・判断・表現】 - 正弦波の式に $x=0$、$t=2T$ を代入した式について、それぞれが何を表す式かを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 正弦波を数式で表す方法について理解しようとしている。	○	○	○	2

C 波の伝わり方	・波の干渉、反射、屈折、回折、ホイヘンスの原理 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・定在波の生じるしくみを理解している。 ・ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。 ・水面波の干渉で強めあう点と弱めあう点の条件を理解している。 ・波の反射・屈折の際に、どのような法則があるかを理解している。 【思考・判断・表現】 ・2つの波源から出た波が、強めあう条件と弱めあう条件を説明することができる。 ・海岸に向かってくる波の波面が海岸線に対して平行になる理由を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・波の干渉や反射、屈折、回折などの波の伝わり方に興味をもち、理解しようとしている。	○	○	○	2
第2章 音 A 音の伝わり方	・音の性質 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している。 ・音の干渉について、音が強めあう条件と弱めあう条件を理解している。 ・うなりについて、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。 【思考・判断・表現】 ・音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。 ・冬の良く晴れた夜に遠くの音がよく聞こえる理由を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・音が関係する現象に興味をもち、音の性質と音の伝わり方について理解しようとしている。	○	○	○	2
B 発音体の振動と共振・共鳴	・弦や気柱の振動、共鳴共振 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 ・気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・弦楽器の音にはどのようなことが関係しているかを、これまでの学習内容を踏まえて考えることができる。 ・倍音とはどのような振動数の音であるかを説明できる。 ・気温と管楽器からの音の振動数にはどのような関係があるかを考察し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べるができる。 ・音に関する問いかけについて、自分の言葉で表そうとしている。	○	○	○	2

C 音のドップラー効果	・ドップラー効果 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・音源が特定の時間だけ音を出す場合のドップラー効果について、観測者が音を観測する時間を考えることができる。 ・運動している音源から出た音の波長が、音源の前方と後方でどのように変化するかを説明することができる。 ・観測者が動く場合（音源は静止）のドップラー効果がなぜ起きるか説明することができる。 ・ドップラー効果を利用した簡易スピード測定の原理について考えることができる。 ・音源が等速円運動をする場合のドップラー効果について、その周囲で音がどのように変化するかを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な現象である音のドップラー効果に興味をもち、なぜそのような現象が起こるか理解しようとしている。	○	○	○	2
	定期考査		○	○		1
第3章 光 2号 A 光の性質	・反射の法則、屈折の法則、屈折率 全反射、スペクトル、散乱、偏光 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・光は進んでいくとき、反射、屈折、分散、散乱を行うこと、またその際にどのような法則が成りたっているのかを理解している。 【思考・判断・表現】 ・光が2つの媒質の境界面で屈折するようすの図から、どちらの媒質のほうが光が伝わるのが速いか判断できる。 ・副虹がどのように見えるか、主虹の場合から類推して考えることができる。 ・プリズムで白色光が分散する理由を説明することができる。 ・晴れた日の昼の空が青く、夕焼けが赤く見える理由を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・光が関係する現象に興味をもち、光についての基本事項と光の進み方について理解しようとしている。	○	○	○	3
B レンズと鏡	・凸レンズ、凹レンズ、球面鏡 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・レンズと鏡によって生じる像を作図することができる。また、写像公式を理解し、式を利用して像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・凸レンズによりスクリーン上に実像ができているとき、レンズの上半分を黒い紙でおおった像がどうなるかを説明することができる。 ・凸レンズの焦点距離の外側に物体（光源）を置くと、どのような像が生じるかを説明することができる。 ・凸面鏡が、平面鏡よりもカーブミラーに適している理由を説明することができる。 ・鏡に全身が映るための条件を考えることができる。 ・お玉杓子の表面と裏面での反射について、それぞれどのように見えるかを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レンズや鏡に興味をもち、それによってどのような像ができるかについて理解しようとしている。	○	○	○	3
C 光の干渉と回折	・ヤングの実験、薄膜、ニュートンリグ ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・身近な現象から、静電気の現象に興味・関心をもち、さまざまな静電気現象について理解しようとしている。 【思考・判断・表現】 ・回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の変化を考えることができる。 ・ヤングの実験で光が強めあうときの条件を説明することができる。 ・媒質の屈折率と光路長の関係を説明することができる。 ・くさび形空気層の平面ガラスに力を加えたときの縞の変化について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・しゃぼん玉やCD・DVDが色づいて見えることについて興味をもち、光の干渉や回折の現象を理解しようとしている。	○	○	○	3

第1章 電場 A 静電気力	・帯電、静電気力、クーロンの法則 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・静電気の帯電のしくみ、電荷のもつ電気量について正しく理解している。 ・電気量保存の法則やクーロンの法則について理解し、関係式を正しく適用できる。 ・箔検電器を用いた電荷の移動について正しく理解している。 【思考・判断・表現】 ・電荷間の距離とはたらく静電気力との関係を説明できる。 ・静電誘導及び誘電分極の現象について、それぞれ説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な現象から、静電気の現象に興味・関心をもち、さまざまな静電気現象について理解しようとしている。	○	○	○	1
B 電場	・電場、電気力線 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・電位について理解し、さまざまな関係式を正しく適用できる。 ・電位は電場と異なり、スカラー量であることを理解している。 ・等電位線（面）がどのようなものか理解している。 【思考・判断・表現】 ・電場はベクトル量、電位はスカラー量であることを理解し、説明できる。 ・電気力線と等電位線の関係について説明できる。 ・電荷間距離と電位の関係のグラフの形状を、電位の性質から考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・電氣的な力が及ぶ空間である電場について、興味・関心を示している。	○	○	○	2
C 電位	・電位、電気力線 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・電位について理解し、さまざまな関係式を正しく適用できる。 ・電位は電場と異なり、スカラー量であることを理解している。 ・等電位線（面）がどのようなものか理解している。 【思考・判断・表現】 ・電場はベクトル量、電位はスカラー量であることを理解し、説明できる。 ・電気力線と等電位線の関係について説明できる。 ・電荷間距離と電位の関係のグラフの形状を、電位の性質から考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解しようとしている。	○	○	○	2

D 物質と電場	・導体内の電場、等電位面 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・外部から電気力線を加えても、導体内部には電気力線が入りこめない（静電遮蔽）理由を理解している。 【思考・判断・表現】 ・電場中に置いた導体内部の電場と電位がどのようになるかを説明できる。 ・アース線の役割を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な静電遮蔽などの事例に興味・関心を示し、理解している。	○	○	○	3
E コンデンサー	・コンデンサー、電気容量、誘電率、比誘電率 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。 ・コンデンサーに誘電体をはさんだとき、電気容量がどのように変わるか理解している。 ・コンデンサーの直列接続、並列接続の公式を理解している。 ・コンデンサーの充電、放電のしかたについて正しく理解している。 【思考・判断・表現】 ・平行板コンデンサーの充電のメカニズムを説明することができる。 ・平行板コンデンサーに誘電体をはさむことによって電気容量が増える理由について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近なコンデンサーの利用例について興味・関心をもち、コンデンサーの性質などを理解しようとしている。	○	○	○	3
第2章 電流 A オームの法則	・オームの法則、温度上昇に伴う抵抗率の変化 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できる。 ・オームの法則の意味をミクロの視点で理解している。 ・抵抗率からどのようなものが電流を流しにくいかを理解している。 ・ジュール熱や電力・電力量について理解している。 【思考・判断・表現】 ・電圧降下とはどのようなことを説明できる。 ・温度と抵抗率の関係について理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・電流の流れ方は物質の種類やつなぎ方によってどのように異なるかということに興味をもっている。	○	○	○	1
B 直流回路	・キルヒホッフの法則 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・抵抗を直列、並列に接続したとき、電流、電圧がどのような関係にあるかを理解している。また、これらのことを踏まえて、電圧計、電流計や分流器、倍率器の正しい使用方法についても理解できている。 ・「起電力」と「電圧降下」の意味を理解しており、キルヒホッフの法則を正しく適用することができる。 ・電池の起電力や内部抵抗の関係やホイーストンブリッジ、電位差計など未知の抵抗値や起電力を調べる方法を理解している。 ・電球やコンデンサーなどを含む回路についての電圧、電流の変化について理解している。 【思考・判断・表現】 ・電圧計に含まれる内部抵抗の大きさを大きくする理由を考察し、説明することができる。 ・電池の起電力や内部抵抗について説明できる。 ・測定する抵抗値の大きさによって、どのような電気回路がより正しい値を測定できるかを判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・電気回路の各抵抗への電流が流れる量や電圧の加わり方がどのようになるかに興味を示している。	○	○	○	3
C 半導体	・ダイオードの整流作用、トランジスタ ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・p型半導体、n型半導体とは何か、また半導体ダイオードやトランジスタのしくみとはたらくについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・半導体のキャリアについて理解し、真性半導体と不純物半導体の性質の違いを判断することができる。 ・半導体ダイオードの整流作用について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・半導体が多く電子機器に利用されていることを知り、半導体に興味や関心をもつことができる。	○	○	○	2

第3章 電流と磁場 A 磁場	・磁場の定義、磁力線、磁性体 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・磁気量について、磁気力に関するクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを通して理解している。 【思考・判断・表現】 ・磁石の性質について理解し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・磁石の性質に興味を示し、身近なものとの関連を考えることができる。	○	○	○	1
B 電流のつくる磁場	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・直線電流、円形電流、ソレノイドの電流がつくる磁場について理解している。 【思考・判断・表現】 ・直線電流や円形電流がつくる磁場について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・導線に電流を流すと導線のまわりに磁場ができることに驚きと興味を示し、より深くこのことについて学ぼうとしている。	○	○	○	2
C 電流が磁場から受ける力	・透磁率、磁場から受ける力、 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・フレミングの左手の法則について理解している。 ・「透磁率」、「比透磁率」、「磁束密度」、「磁束」などの物理量の意味を理解している。 ・平行電流が及ぼしあう力について、定量的・定性的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・定義文を踏まえて透磁率の導出ができる。 ・本節で扱われている磁束密度と磁場の関係を説明できる。 ・フレミングの左手の法則を用いて、電流の流れている導線がどの向きに力を受けるかを判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・モーターがなぜ動くのかに興味・関心を示し、電流が磁場から受ける力について理解しようとしている。	○	○	○	2
D ローレンツ力	・ローレンツ力、サイクロトロン ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・ローレンツ力について理解している。また、ローレンツ力を応用した「ホール効果」や「サイクロトロン」についても、これらの原理(やしくみ)を理解している。 【思考・判断・表現】 ・ローレンツ力とは何かを説明できる。 ・磁場中を運動する荷電粒子の運動がどのようになるかを説明できる。 ・ある荷電粒子の記述について、これまでの学習内容を踏まえて考え、答えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・オーロラなどのローレンツ力の例に興味・関心を示し、ローレンツ力について理解しようとしている。	○	○	○	2
定期考査			○	○		1

第4章 電磁誘導と電磁波 A 電磁誘導の法則	・電磁誘導の法則、誘導起電力、ファラデーの法則、 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・さまざまな電磁誘導の事例について理解している。また、関係式も適用できる。 【思考・判断・表現】 ・渦電流の各事例について考察，説明ができる。 ・レンツの法則について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・磁場を変化させると電流が生じることに興味・関心をもち，電磁誘導について理解しようとしている。	○	○	○	2
B 自己誘導と相互誘導	・誘導起電力、コイルによるエネルギー ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・自己誘導や相互誘導などの関係式を適用できる。 ・コイルと抵抗を含む回路について理解している。 【思考・判断・表現】 ・自己誘導起電力の大きさを表す式を，ともにファラデーの電磁誘導の法則の式から説明することができる。 ・自己誘導の現象を言葉で説明できる。 ・コイルに蓄えられるエネルギーと流れる電流の関係について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・相互誘導の現象は変圧器とも関係している。このことから，自己誘導・相互誘導に学習する意欲・関心をもっている。	○	○	○	2
C 交流の発生	・交流の発生、交流電圧、実効値 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・交流電圧の公式を理解している。また，交流電流・交流電圧の実効値の意味を理解している。 ・変圧器の関係式を適用できる。 【思考・判断・表現】 ・コイルを回転させる速さと誘導起電力の大きさの関係を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近にある自転車の発電機の原理はどのようなになっているかということに興味・関心をもっている。また，交流そのものについての知識をもととする意欲がある。	○	○	○	2

D 交流回路	- リアクタンス、インピーダンス、共振回路 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 交流電流，交流電圧の式を理解している。 - また，これらには位相差が生じていることを理解している。 - コイル・コンデンサーのリアクタンスについて理解している。また，交流回路のインピーダンスについても理解している。 - 共振回路や電気振動についても理解している。 【思考・判断・表現】 「スピーカーと交流回路」を題材にコンデンサーとコイルを使ってどのように高音と低音のスピーカーを実現させるかを考察できる。 - 抵抗，コイル，コンデンサーに流れる交流電流に対する位相差について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 交流回路では，コイルやコンデンサーで電圧・電流に位相差が生じることに興味をもち，交流回路について理解しようとしている。	○	○	○	2
E 電磁波	- 電磁波の発生のしくみ - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 電磁波はその波長により，ふるまいが大きく異なり，波長により分類できることを理解している。 - 電磁波も一般的な波と同様，回折と干渉，反射，屈折の性質を示すことを理解している。 - 高温の物体からはその温度により決められる波長分布の熱放射の電磁波が出ていること理解している。 【思考・判断・表現】 - 近い周波数の電磁波では，たがいに影響を受けやすいことを説明できる。 - 電磁波の発生原理について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 生活の中で利用しているさまざまな電磁波に興味をもち，電磁波の性質について理解しようとしている。	○	○	○	3
第1章 電子 A 電子	- 陰極線、トムソンの実験、ミリカンの実験 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 放電（気体放電，真空放電）および陰極線について理解している。 - 電子の比電荷について，測定原理も含めて理解している。 - ミリカンの実験を踏まえた電気素量の導出について理解している。 【思考・判断・表現】 - 電子の比電荷と電気素量の値から電子の質量をどのように求めるか説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 電子がどのようにして発見されたのか，また電子の電荷や質量はどのようにして測定されたのかに興味をもち，電子の性質について理解しようとしている。	○	○	○	2
B 光の粒子性	- 光電効果 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - 光子のエネルギーの式を適用できる。 - 光電効果について理解している。 - 電子ボルトの単位を適用できる。 【思考・判断・表現】 - 光電効果の原理を踏まえて，考え，説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 光が粒子性をもつことに興味・関心を示し，光電効果の原理などを理解しようとしている。	○	○	○	2
C X線	- 結晶構造、X線解析、コンプトン効果 - 教科書、プリント	【知識・技能】 - X線の性質，特徴について理解している。 - X線回折について理解している。 - X線のコンプトン効果について理解している。 【思考・判断・表現】 - X線回折とX線のコンプトン効果について，波動性と粒子性を踏まえて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 健康診断の検査などで使われているX線とはどのようなものであるかに関心を示し，理解しようとしている。	○	○	○	2

D 粒子の波動性	・光の波動性 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・物質波について理解している。 ・電子線の回折・干渉について理解している。 【思考・判断・表現】 ・電子の波動性について説明できる。 ・光の粒子性に着目して、人の肌の日焼けについて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・電子顕微鏡は電子が波動としてふるまう性質を応用したものである。この、一見すると相反する波動性と粒子性をあわせもつ二重性について、興味・関心を示し、理解しようとしている。	○	○	○	2
----------	--	---	---	---	---	---

第2章 原子と原子核 A 原子の構造とエネルギー準位	・ラザフォードの原子模型、バルマー系列、ボーアの 수소原子模型 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・スペクトルには、連続スペクトル、線スペクトルなどがあることを理解している。 ・ボーア理論（量子条件・振動条件）について理解している。 【思考・判断・表現】 ・電子のエネルギー準位について理解し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・原子と原子核の大きさの差から原子に興味・関心を示し、原子の構造とエネルギー準位についても理解しようとしている。	○	○	○	2
B 原子核	・陽子、中性子、統一原子質量単位 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・「原子・原子核」を表す記号から、原子核を構成する陽子・中性子の数を求めることができる。 ・同位体について理解している。また、同位体の存在比を元に原子量を求められることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・原子核の構成から同位体どうしの相違点について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・同じ元素記号なのに異なる原子核についての共通点と相違点に興味・関心をもち、原子核について理解しようとしている。	○	○	○	2
C 放射線とその性質	・α崩壊、ベータ崩壊、放射線の測定単位、半減期 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・放射性崩壊によって、原子核がどのように変化するか理解している。 ・半減期について理解している。 ・放射能と放射線の測定単位の定義を理解している。 【思考・判断・表現】 ・α線、β線、γ線の正体や、α崩壊、β崩壊のしくみを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「放射線」と「放射性物質」ではどのように意味が異なるかに、興味・関心を示し、放射線とその性質について理解しようとしている。	○	○	○	2
D 核反応と核エネルギー	・原子核反応式、質量欠損、結合エネルギー、核融合反応 ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・核反応を式に表すことができる。 ・結合エネルギーの定義を理解し、核反応によって放出されるエネルギーを求めることができる。 ・核分裂反応・核融合反応について理解している。 【思考・判断・表現】 ・核反応の前後で原子核の質量の和が減少するとき、その質量差に相当するエネルギーが核エネルギーとして解放されることを定量的に説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・核エネルギーとは何か、どうしてあのような莫大な量のエネルギーが取り出せるのかに、興味・関心を示し、理解しようとしている。	○	○	○	2
E 素粒子	・自然の階層性、素粒子、クォーク ・教科書、プリント	【知識・技能】 ・素粒子の分類について理解している。 ・さまざまなハドロンがどのクォークで構成されているか調べ、それらの電気量の値をクォークの種類より算出することができる。 【思考・判断・表現】 ・ハドロンがどのような粒子で構成されているか、また、どのような力がはたらいているかを説明できる。	○	○	○	2
定期考査			○	○		1
入試演習						14
						合計
						140

神代 高等学校 今年度（3 学年用） 教科 理科 科目 化学演習

教 科： 理科 科 目： 化学演習 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択

使用教科書： （ 東京書籍 化学 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】化学的な事物・現象についての理解を深め、科学の概念や原理を理解し、演習・観察・実験などを通して

【思考力、判断力、表現力等】演習・観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するための基本的な演習・観察技能を身につける。	演習や観察・実験を通じて、科学的に探究する力を養う。	化学の学習や化学の現象に主体的に関わり、科学的な探究への意欲と探究する力を養う。また自然環境の保全に寄与し、持続可能な社会を実現する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	4-1 周期表と元素 4-2 非金属元素の単体と化合物 【知識及び技能】 周期表と元素についてまた非金属元素とその化合物についての基本的な事項を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 周期表と元素についてまた非金属元素とその化合物について考察し、思考する力をつける。 【学びに向かう力、人間性等】 周期表と元素についてまた非金属元素とその化合物について主体的に関わり、課題解決について考えさせる。	・指導事項 周期表と元素についてまた非金属元素とその化合物についての基本的な事項を理解させる。熱量を求める問題は、順序立てて理解させる。 ・教材 教科書、参考書(東京書籍『ニューグローバル』数研出版『フォトサイエンス化学図録』)、プリント ・一人1台端末の活用 等 教科書および参考書上部のQRコードのリンクから、映像教材を開き提示した。	【知識・技能】 周期表と元素についてまた非金属元素とその化合物の基本的な事項を理解できている。 【思考・判断・表現】 周期表と元素についてまた非金属元素とその化合物について考察し、思考する力をつけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 周期表と元素についてまた非金属元素とその化合物について主体的に関わり、課題解決について考えることができる。	○	○	○	15
	4-3 典型金属元素の単体と化合物 【知識及び技能】 典型金属元素の単体と化合物について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 典型金属元素の単体と化合物について考察し、思考する力をつける。 【学びに向かう力、人間性等】 典型金属元素の単体と化合物について主体的に関わり、課題解決について考えさせる。	・指導事項 典型金属元素の単体と化合物について理解させる。 ・教材 教科書、参考書(東京書籍『ニューグローバル』数研出版『フォトサイエンス化学図録』)、プリント ・一人1台端末の活用 等 教科書および参考書上部のQRコードのリンクから、映像教材を開き提示した。	【知識及び技能】 典型金属元素の単体と化合物について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 典型金属元素の単体と化合物について考察し、思考する力をつけている。 【学びに向かう力、人間性等】 典型金属元素の単体と化合物について主体的に関わり、課題解決について考えられる。	○	○	○	14
	定期考查			○	○		1
	4-4 遷移元素の単体とその化合物 【知識及び技能】 遷移元素の単体と化合物について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 遷移元素の単体と化合物について思考・判断できるようにさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 遷移元素の単体と化合物について事物・現象に主体的に関わり、課題解決について考えさせる。	・指導事項 遷移元素の単体と化合物について演習を中心に学習し、理解させる。 ・教材 教科書、参考書(東京書籍『ニューグローバル』数研出版『フォトサイエンス化学図録』)、プリント ・一人1台端末の活用 等 教科書および参考書上部のQRコードのリンクから、映像教材を開き提示した。	【知識・技能】 遷移元素の単体と化合物について理解できる。 【思考・判断・表現】 遷移元素の単体と化合物について思考・判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 遷移元素の単体と化合物について事物・現象に主体的に関わり、課題解決について考えることができる。	○	○	○	16
	4-5 金属イオンの分離と確認 【知識及び技能】 金属イオンの分離と確認について学習し、理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 金属イオンの分離と確認について考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】 金属イオンの分離と確認について、事物・現象に主体的に関わり、課題解決について考えさせる。	・指導事項 金属イオンの分離と確認について理解させる。 ・教材 教科書、参考書(東京書籍『ニューグローバル』数研出版『フォトサイエンス化学図録』)、プリント ・一人1台端末の活用 等 教科書および参考書上部のQRコードのリンクから、映像教材を開き提示した。	【知識・技能】 金属イオンの分離と確認について、理解している。 【思考・判断・表現】 金属イオンの分離と確認について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 金属イオンの分離と確認に関する事物・現象に主体的に関わり、課題解決について考えることができる。	○	○	○	10
	定期考查			○	○		1
	5-1 有機化合物の特徴と構造 【知識及び技能】 有機化合物の特徴と構造について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 有機化合物の特徴と構造を演習的に学び考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】 有機化合物の特徴と構造について主体的に関わり、課題解決について考えさせる。	・指導事項 有機化合物の特徴と構造について理解させる。 ・教材 教科書、参考書(東京書籍『ニューグローバル』数研出版『フォトサイエンス化学図録』)、プリント ・一人1台端末の活用 等 教科書および参考書上部のQRコードのリンクから、映像教材を開き提示した。	【知識・技能】 有機化合物の特徴と構造について理解できる。 【思考・判断・表現】 有機化合物の特徴と構造を演習的に学び考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 有機化合物の特徴と構造について主体的に関わり、課題解決について考えることができる。	○	○	○	10

2 学 期	5-2 炭化水素 5-3 アルコールと関連物質 【知識及び技能】 炭化水素及びアルコールやその関連物質について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 炭化水素及びアルコールやその関連物質について考察し、判断させる。 【学びに向かう力、人間性等】 炭化水素及びアルコールやその関連物質の学びに主体的に関わり、課題解決について考えさせる。	・指導事項 炭化水素及びアルコールやその関連物質について理解させる。 ・教材 教科書、参考書(東京書籍『ニューグローバル』数研出版『フォトサイエンス化学図録』)、プリント ・一人1台端末の活用 等 教科書および参考書上部のQRコードのリンクから、映像教材を開き提示した。	【知識・技能】 炭化水素及びアルコールやその関連物質について理解できる。 【思考・判断・表現】 炭化水素及びアルコールやその関連物質について考察し、判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 炭化水素及びアルコールやその関連物質に関する事物・現象に主体的に関わり、課題解決について考えることができる。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	5-4 芳香族化合物 6編 高分子化合物 【知識及び技能】 芳香族化合物と高分子化合物について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 芳香族化合物と高分子化合物について考察し、判断させる。 【学びに向かう力、人間性等】 芳香族化合物と高分子化合物の学びに主体的に関わり、課題解決について考えさせる。	・指導事項 芳香族化合物と高分子化合物について、理解させる。 ・教材 教科書、参考書(東京書籍『ニューグローバル』数研出版『フォトサイエンス化学図録』)、プリント ・一人1台端末の活用 等 教科書および参考書上部のQRコードのリンクから、映像教材を開き提示した。	【知識・技能】 芳香族化合物と高分子化合物について理解できる。 【思考・判断・表現】 芳香族化合物と高分子化合物について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 芳香族化合物と高分子化合物の学びに主体的に関わり、課題解決について考えることができる。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期							
							合計
							105

神代 高等学校 今年度（3 学年用） 教科 理科 科目 生物演習

教 科： 理科 科 目： 生物演習

単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 3 組

使用教科書：（ 第一学習社 『高等学校 生物 BIOLOGY』 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な探究のための観察・実験に関する技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するための基本的な観察・実験技能を身につける。	観察・実験および基本的な知識を応用することで、見通しをもって科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的な探究への意欲と、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 動物の反応と行動 【知識及び技能】 外界の刺激を受容し、神経系を介して反応するしくみを、関与する細胞の特性と関連づけて理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から運動ニューロンの活動電位と筋収縮の関係を考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】 動物の反応に関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなどについて科学的な探究を促す。 定期考査	・指導事項 動物が生きていくのに必要な情報をどのようにして受容し、脳に伝えているのかについて、また、神経系と受容器、筋肉との構造的・機能的なつながりについても理解させる。 ・教材 教科書、参考書(第一学習社『セミナー』数研出版『フォトサイエンス生物図録』)、プリント・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 外界の刺激を受容し、神経系を介して反応するしくみを、関与する細胞の特性と関連づけて理解できている。 【思考・判断・表現】 資料から運動ニューロンの活動電位と筋収縮の関係を考察できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 動物の反応に関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなどについて科学的に探究できている。	○	○	○	13
				○	○		1
	A 動物の反応と行動 【知識及び技能】 動物の行動には生得的なものや習得的なものがあることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から、慣れが起こるしくみを考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】 動物の行動に関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなどについて科学的な探究を促す。	・指導事項 動物では、受容した刺激に応じて神経回路が変わることを理解させる。 ・教材 教科書、参考書(第一学習社『セミナー』数研出版『フォトサイエンス生物図録』)、プリント・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 動物の行動には生得的なものや習得的なものがあることを理解できている。 【思考・判断・表現】 資料から、慣れが起こるしくみを考察できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 動物の行動に関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなどについて科学的に探究できている。	○	○	○	8
	B 植物の成長と環境応答 【知識及び技能】 植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見出して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ダイコンの芽生えがリンゴの果実から受ける影響について仮説を立て、実験結果をもとに仮説を検証させる。 【学びに向かう力、人間性等】 植物の生長と環境応答に関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなど科学的な探究を促す。 定期考査	・指導事項 植物が環境からの刺激をどのように受容し、その情報をどのように伝えて伝達しているのかを理解させる。 ・教材 教科書、参考書(第一学習社『セミナー』数研出版『フォトサイエンス生物図録』)、プリント・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見出して理解できている。 【思考・判断・表現】 ダイコンの芽生えがリンゴの果実から受ける影響について仮説を立て、実験結果をもとに仮説を検証することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物の生長と環境応答に関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなどについて科学的に探究できている。	○	○	○	10
				○	○		1
2 学 期	C 生態系のしくみと人間の関わり 【知識及び技能】 個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を見出して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 個体群の変動に影響を与える要因を見出し、仮説を設定させる。 【学びに向かう力、人間性等】 生態系のしくみと人間の関わりに関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなど科学的に探究を促す。	・指導事項 個体群の特徴を理解し、個体群内における個体の分布様式や年齢構成とその変化、個体群の大きさとその調査方法について理解させる。 ・教材 教科書、参考書(第一学習社『セミナー』数研出版『フォトサイエンス生物図録』)、プリント・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を見出して理解することができる。 【思考・判断・表現】 個体群の変動に影響を与える要因を見出し、仮説を設定することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生態系のしくみと人間の関わりに関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなど科学的に探究できている。	○	○	○	15
	【単元総復習】 問題演習により、身につけた知識・技能を応用し、思考力・判断力が問われる問題を解くことができるように指導する。	・指導事項 今までに学んだ内容について、知識・技能を応用させる。 ・教材 教科書、参考書(第一学習社『セミナー』数研出版『フォトサイエンス生物図録』)、プリント・一人1台端末の活用 等	【単元総復習】 問題演習により、身につけた知識・技能を応用し、思考力・判断力が問われる問題を解くことができる。				13
3 学 期							
							合計 61

神代 高等学校 今年度（3 学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 新高等保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】生涯に通じた健康の保持増進・豊かなスポーツライフをどうすれば実現できるかを考え、理解する。

【思考力、判断力、表現力等】自らの健康やスポーツに関する課題を発見し、その課題解決を図る主体的かつ協働的な学習を進める。

【学びに向かう力、人間性等】目覚ましく変化する社会の中で、心と体を一体と捉え、生涯を通じて健康の保持増進・豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
各種目には、様々なルールがあることを理解し、実践する。 各種目の動きの特性を理解し、正しい動きを実践する。	自己の課題を把握する。自己の課題解決のために目標を立てる。 課題改善に向けて反省と振り返りをする。	自主的に種目に取り組む。 自己の目標を見出し、目標達成に向けて挑戦する。 目標を達成する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 体づくり運動 I（男女） B バレーボール（男女） C バドミントン（男） D ソフトボール（女） 【知識・技能】 ルール・動きの特性を理解する 【思考・判断・表現】 自己の課題を見つけ、解決する 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を見出し、目標達成を目指す	オリエンテーション A 50M、100M走 ストレッチ、リズム体操 筋肉・調整力を高める運動 B オーバーパス・アンダーパス サーブ・アタック ミニゲーム・ゲーム C フォア・バック・ロブ・ボレー スマッシュ・サーブ・レシーブ ミニゲーム・ゲーム D キャッチボール T バッティング・バッティング 捕球・ゲーム	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の観点から、スキルテストや提出物、出席、授業への参加態度などを基に総合的に評価する。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	E 体育祭練習 【知識・技能】 ルール・動きの特性を理解する 【思考・判断・表現】 自己の課題を見つけ、解決する 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を見出し、目標達成を目指す	D 各種選択種目	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の観点から、スキルテストや提出物、出席、授業への参加態度などを基に総合的に評価する。	○	○	○	8
	C バドミントン（男） D ソフトボール（女） E 水泳 【知識・技能】 ルール・動きの特性を理解する 【思考・判断・表現】 自己の課題を見つけ、解決する 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を見出し、目標達成を目指す	C フォア・バック・ロブ・ボレー スマッシュ・サーブ・レシーブ ミニゲーム・ゲーム D キャッチボール T バッティング・バッティング 捕球・ゲーム E クロール キック・ストローク コンビネーション タイムトライ E 4泳法 キック・ストローク コンビネーション・タイムトライ	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の観点から、スキルテストや提出物、出席、授業への参加態度などを基に総合的に評価する。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	E 水泳 【知識・技能】 ルール・動きの特性を理解する 【思考・判断・表現】 自己の課題を見つけ、解決する 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を見出し、目標達成を目指す	E 4泳法 キック・ストローク コンビネーション・タイムトライ	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の観点から、スキルテストや提出物、出席、授業への参加態度などを基に総合的に評価する。		1		18
	F 【選択体育】 ・バスケットボール ・バレーボール ・テニス ・フットサル ・アルティメット 【知識・技能】 ルール・動きの特性を理解する 【思考・判断・表現】 自己の課題を見つけ、解決する 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を見出し、目標達成を目指す	F 各種選択種目	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の観点から、スキルテストや提出物、出席、授業への参加態度などを基に総合的に評価する。				19
3 学 期							
							67

神代 高等学校 今年度（3 学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅢ

教 科： 外国語 科 目： 英語コミュニケーションⅢ 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ LANDMARK English Communication Ⅲ ）

教科 外国語 の目標：

- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。
- 外国語の背景にある文に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅢ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	や	説					
1 学 期	【教科書】Lesson 2 Blood is Blood 英文を読み、その概要・要点や書き手の意図を正しく理解したうえで、繰り返しの音読活動や再話活動を通して英文を定着させる。また、内容に関連したテーマについて、目的・場面・状況に応じて自分の意見を表現したり、伝え合ったりする。	・指導事項 人権、医療 ・教材 教科書、ハンドアウト ・一人1台端末の活用 等	○	○		○	【知識・技能】 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の※音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	○	○	○	14
	【リスニング】第1～7回 日常的な話題や社会的な話題について、英文を聞き、話の展開や話し手の意図、概要・要点や詳細を正しく理解する。	・指導事項 講義、説明、対話等の聞き取り ・教材 共通テストリスニング 分野別10 min.	○				【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	○			10
	定期考査		○	○			○	○	○		1
	【教科書】Lesson 3 Saving Out Treasures from the Sea 英文を読み、その概要・要点や書き手の意図を正しく理解したうえで、繰り返しの音読活動や再話活動を通して英文を定着させる。また、内容に関連したテーマについて、目的・場面・状況に応じて自分の意見を表現したり、伝え合ったりする。	・指導事項 環境・科学技術 ・教材 教科書、ハンドアウト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○	【知識・技能】 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の※音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	○	○	○	18
	【リスニング】第8～13回 日常的な話題や社会的な話題について、英文を聞き、話の展開や話し手の意図、概要・要点や詳細を正しく理解する。	・指導事項 講義、説明、対話等の聞き取り ・教材 共通テストリスニング 分野別10 min.	○				【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	○			10
	定期考査		○	○			○	○	○		1

[illegible]

外国語 科目 論理表現Ⅲ

单位数： 2 单位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ Vision Qiestt English Logic and Expression III ）

教科 外国語 の目標：

外国語の語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらの知識を話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。「論理・表現Ⅱ」の学習内容を踏まえ、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動に行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりすることができる能力を養う。

具体的な活動と領域は以下の通り。

(1) 話すこと[やり取り]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようになる。

(2) 話すこと[発表]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。

科目 論理表現Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 【技能】 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			聞	読	話 「 」 「 」	話 「 」 「 」	書						
1 学 期	Lesson 1 Friendship and improvement Lesson2 Which is better, a paper or an electronic dictionary?	・指導事項 相談メール、書店での商品説明 ・教材 教科書・プリント ・一人1台端末				○	○	○	【知識及び技能】 助言のフレーズを学び、それを活用し相談メールに効果的なアドバイスをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ペアやグループを通じて、主体的に学習しようとしている	○	○	○	10
	Lesson3 Can you change your personality? Lesson4 How do we make a decision?	・指導事項 語彙・文法・構文 ・教材 プリント ・一人1台端末				○	○	○	【知識及び技能】 情報を適切に伝えることができる 【思考力、判断力、表現力等】 読み手を意識しながら、伝える内容を整理し伝えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 ペアやグループを通じて、主体的に学習しようとしている	○	○	○	15
	定期考査									○	○		1
	Lesson5 Online doctor consultations Lesson6 Healthy Lifestyle	・指導事項 語彙・文法・構文 ・教材 プリント ・一人1台端末				○	○	○	【知識及び技能】 情報を適切に伝えることができる 【思考力、判断力、表現力等】 読み手を意識しながら、伝える内容を整理し伝えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 ペアやグループを通じて、主体的に学習しようとしている	○	○	○	18
	Lesson7 What do you do after school? Lesson8 Direct and indirect ways of communication	・指導事項 語彙・文法・構文 ・教材 プリント ・一人1台端末				○	○	○	【知識及び技能】 情報を適切に伝えることができる 【思考力、判断力、表現力等】 読み手を意識しながら、伝える内容を整理し伝えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 ペアやグループを通じて、主体的に学習しようとしている	○	○	○	10
	定期考査									○	○		1

2 学 期	Lesson9 Should we use social media? Lesson10 Are you a good user of socialmedia?	・指導事項 語彙・文法・構文 ・教材 プリント ・一人1台端末					○	○	○	15
	Lesson11 Lifetime employment or career changes? Lesson12 Diversity in the workplace	・指導事項 語彙・文法・構文 ・教材 プリント ・一人1台端末					○	○	○	16
	定期考査									1
	Lesson13 The rise of the cashless society Lesson14 The gap is widening	・指導事項 語彙・文法・構文 ・教材 プリント ・一人1台端末					○	○	○	10
	Lesson15 What can wedo to solve global warming Lesson16 Saving the earh from plastic waste	・指導事項 語彙・文法・構文 ・教材 プリント ・一人1台端末					○	○	○	15
	定期考査									1
	3 学 期	Lesson17 Innovations in machine translation	・指導事項 発音・応答 ・教材 教科書・プリント					○	○	○
										合計
										61

神代 高等学校 今年度（3 学年用） 第 教科 情報 科目 情報Ⅱ

教 科： 情報 科 目： 情報Ⅱ 単位数： 2 単 位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 日本文教出版 「情報Ⅱ」 ）

教科 情報 の目標：

【知 識 及 び 技 能】効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めている。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価・改善し新たな価値を創造しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	■情報Ⅰまでの学習内容を確認する ■情報Ⅱを学ぶ意義や学習イメージを理解する	・指導事項 情報Ⅰまでの学習内容の確認 ・教材 教科書	【知識・技能】 情報Ⅰの学習内容を振り返り、復習すべき点を見つけている。 教科書の構成を踏まえ、情報Ⅰと情報Ⅱの学習内容の違いを理解している。 【思考・判断・表現】 情報Ⅰの学習内容を振り返り、十分理解している点、復習すべき点について考えられる。 情報Ⅰと情報Ⅱの学習内容を比較し、情報Ⅱの学習を通して、情報技術および情報社会への理解がどう深まるのか考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 チェックリストやキーワードによる確認を通して、情報Ⅰの復習すべき点について確かめようとしている。 情報Ⅱの学習が、情報技術および情報社会の理解にどのように役立ちそうか見通しを立てようとしている。	○	○	○	8
	■情報技術の発展がわたしたちの生活や社会にもたらした変化を理解する ■情報技術がわたしたちの未来にどう影響するかを考える	・指導事項 情報技術による社会や生活の変化 ・教材 教科書	【知識・技能】 ・コンピュータ、携帯電話、インターネット等の情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展について理解している。 ・ソーシャルメディアの発展によるコミュニケーションの多様化について理解している。 ・データやAIの発展による人の知的活動への影響について理解している。 【思考・判断・表現】 ・情報技術の発展の歴史を踏まえ、わたしたちの生活や社会に与えてきた影響について考えられる。 ・コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツのあり方について考察している。 ・データ活用やAIを利用する意義について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報技術の歴史に関心を持ち、その発展の経緯を調べようとしている。 ・社会における問題解決のために情報技術がどのように役立っているのか調べようとしている。	○	○	○	6
	■情報セキュリティの必要性和重要性について確認する ■情報社会にかかわる法律を確認し、これからの情報社会のあり方を考える	・指導事項 情報社会と情報セキュリティ ・教材 教科書	【知識・技能】 ・サイバー犯罪とはどのようなものか理解している。 ・情報セキュリティの必要性和重要性について理解している。 ・情報に関する法規や制度について理解している。 ・情報社会の進展にともない、さまざまな法律が整備されてきたことを理解している。 【思考・判断・表現】 ・情報セキュリティの確保に必要な技術がどのような役割をはたしているか考えられる。 ・個人が気をつけるべき情報セキュリティ対策について考えられる。 ・情報に関する法規や制度の意義、課題について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報社会の問題を発見・考察することを通して、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 ・情報に関する法規や制度を理解して、情報社会に主体的に参画しようとしている。	○	○		6
	■基本的なコンテンツ制作の工程を理解する ■コンテンツ対象の発見と解決策立案の手法を理解する ■情報を効果的に伝えるためのメディアの選び方を学ぶ ■コンテンツ制作の進行管理法などを理解する	・指導事項 コンテンツの制作 ・教材 教科書	【知識・技能】 ・文字、音声、静止画、動画のメディアにおける特性を理解している。 ・効果的なコンテンツを制作するために制作過程で留意すべき点を把握している。 ・ユーザが見やすく、使いやすいコンテンツについて理解している。 ・要件定義書をまとめるためのユーザ調査の手法を理解している。 ・問題解決の仮説を作成する手法を理解している。 【思考・判断・表現】 ・コンテンツにおいて使われているメディアが、それぞれどのような効果をもたらしているかを考え、判断できる。 ・効果的なメディアの使い方について、具体的に考え表現できる。 ・ユーザ調査に必要な内容を考え作成し、実施することができる。 ・問題解決の仮説に必要なペルソナを考え、構造化シナリオを作成することができる。 ・ユーザ要件定義を考え、わかりやすく表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コンテンツにおけるメディアの効果について、考えようとしている。 ・複数のコンテンツについて差異を観察し、意見交換している。 ・ユーザ調査に必要な調査内容や、ユーザ要件定義の具体化のために、積極的に意見交換している。	○	○	○	8

2 学 期	■Webサイトでの情報発信の方法としくみを確認する ■Webサイトのアクセス解析をコンテンツ改善に役立てる	・指導事項 Webサイトによる情報発信 ・教材 教科書	【知識・技能】 ・Webサイトによる情報発信のしくみとWebアプリケーションの役割について理解している。 ・SSL/TLSによる安全な情報通信のしくみについて理解している。 ・アクセスログを解析し問題・課題点を把握する重要性を理解している。 ・アクセス解析を行うためのツールについて理解している。 ・Webサイトに必要なSEO対策の具体的な方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ・導入するWebアプリケーションを選択できる。 ・安全に通信するために必要なSSLサーバ証明書の発行元を選択できる。 ・アクセスログから、問題・課題点を考え、改善策を考えることができる。 ・Webサイトに必要なSEO対策を考え、実行することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・Webアプリケーションや、SSLサーバ証明書について、積極的に意見交換している。 ・アクセス解析ツールの操作を通して、問題・課題点について積極的に意見交換し、具体的な改善策も提案している。			8	
	■情報システムのデータの特性を理解する ■データサイエンスの活用例とその重要性を理解する ■データの収集法と留意点を確認する ■収集したデータの整理の必要性を理解する ■データベースの形と管理方法について理解する ■データの可視化と数理モデルについて理解する ■機械学習のさまざまなデータ分析手法を学ぶ	・指導事項 情報とデータサイエンス ・教材 教科書	【知識・技能】 ・社会で活用されている情報システムのしくみを理解している。 ・情報システム上で流通するデータと尺度の関係を理解している。 ・データサイエンスとはどのような学問分野であるか理解している。 ・データサイエンスが活用されたサービスについて理解している。 ・標本調査における適切なサンプルサイズについて理解している。 ・バイアスと交絡が調査結果にもたらす影響について理解している。 ・尺度と統計量の関係について理解している。 ・前処理の必要性と処理の方法について理解している。 ・リレーショナルデータベースの構成について理解している。 ・データウェアハウスの特徴と利用方法について理解している。 ・データ分析における可視化の必要性とその方法について理解している。 ・尺度とデータ分析に利用されるグラフの関係について理解している。 ・数理モデルの考え方と構築方法について理解している。 ・機械学習の考え方について理解している。 ・機械学習における分類の考え方について理解している。 ・機械学習の分類手法の具体例について理解している。 【思考・判断・表現】 ・ビッグデータとオープンデータの事例についてわかりやすく表現できる。 ・データサイエンスが活用されたサービスのしくみについて詳しく調べ、わかりやすく発表できる。 ・標本調査における適切なサンプルサイズを表現することができる。 ・バイアスや交絡の具体例と調査結果への影響を判断できる。 ・表計算ソフトウェアなどを利用して、適切な前処理と統計処理を行うことができる。 ・リレーショナルデータベースのテーブルを作成するとき、主キーを意識したテーブルの構成をすることができる。 ・取得したデータを可視化するために最も適切なグラフを選択し表現できる。または、効果的な図に可視化できる。 ・データから数理モデルを構築することができる。 ・機械学習の分類ごとに、データの与え方や学習のしかたについて、活用例を交えて説明できる。 ・与えられたデータを用いて、生徒自身がソフトウェアなどで分類の各手法を実践し、図やグラフ、表を用いて結果を表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報システム上のデータと尺度の関係を理解しようとしている。 ・ビッグデータとオープンデータの具体例について調べ、共有しようとしている。 ・データサイエンスとその活用例について理解しようとしている。 ・データサイエンスが活用されたサービスのしくみについて詳しく調べようとしている。 ・標本調査の調査結果と母集団との間に生じる誤差について理解しようとしている。 ・バイアスや交絡の調査結果への影響について判断しようとしている。 ・尺度と統計量の関係について理解しようとしている。 ・前処理と統計処理を適切に行おうとしている。 ・データ分析における可視化の必要性とその方法について理解しようとしている。 ・データを取得して効果的に可視化しようとしている。 ・数理モデルの考え方と構築方法について理解しようとしている。 ・データから数理モデルを構築しようとしている。 ・機械学習の考え方や手法について理解しようとしている。 ・機械学習の活用例について調べようとしている。 ・機械学習における分類の考え方について理解しようとしている。 ・分類手法を表現しようとしている。	○	○	○	12
	■情報システムの社会への影響を理解する ■情報システムの処理形態やデータの流れ、情報システムを支える技術を理解する	・指導事項 情報システムとプログラミング ・教材 教科書	【知識・技能】 ・情報システムがわたしたちの生活に必要不可欠であることを理解している。 ・情報システムによって得られる利便性ととも、その課題についても理解している。 ・情報システムで扱われるデータの内容を理解している。 ・情報システムで扱われるデータがどのように処理されているか理解している。 【思考・判断・表現】 ・情報システムが果たしている役割を考え説明できる。 ・個々の情報システムについて問題点を考え、改善策を考えることができる。 ・情報システムで扱われるデータの内容を考え、わかりやすく表現できる。 ・自分が普段使用しているネットワーク（自宅LANなど）について、わかりやすく表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報システムのもたらす影響力について、積極的に意見交換している。 ・情報システムのメリットや問題点について、積極的に意見交換している。 ・情報システムで扱われるデータの内容について、積極的に発表しようとしている。	○	○	○	10

3 学 期	■これまで情報で学んだことを問題解決の探究につなげるために振り返る ・指導事項 情報と情報技術を活用した問題解決 情報と情報技術を活用した問題解決の探究—実践編 ・教材 教科書	【知識・技能】 ・問題とは何であり、何をどうすれば解決できるのかを理解している。 ・これまで学習してきた内容を把握している。 【思考・判断・表現】 ・これまでの学習と今後の実践とを関連付けて考えられる。 ・これまでの学習内容を、今後の実践に活かす方策を具体的に思い描くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・これまでの学習内容を、具体的に書き出そうとしている。 ・よりよい問題解決に向けて、考慮すべき要点を具体化しようとしている。	○ ○ ○	12
				合計
				70

総合的な探究の時間 科目 総合的な探究の時間

单位数： 1 单位

使用教科書：（

【学びに向かう力、人間性等】社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う

科目 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
主体的な自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける	考察したことを効果的に説明したり、それをもとに議論したりする力を養う	社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	論文の構造を知る	- 論文の構造について学ぶ - 実際の論文を読んで分析する - 一人1台端末を活用して論文を読む	授業後の課題（要約、感想、参加態度の自己評価）により評価する。	○	○	○	3
	論文執筆の計画を立てる	- 論文の項目立てを行う 2年次の探究発表の内容を論文の項目として書き起こす	授業後の課題（要約、感想、参加態度の自己評価）により評価する。	○	○	○	3
	中間発表を経て、論文の加筆修正を行う	お互いに途中経過に対する意見を収集し、ブラッシュアップを行う	授業後の課題（要約、感想、参加態度の自己評価）により評価する。	○	○	○	3
	論文を完成させる	論文を完成形として内容だけでなく、体裁を整える	提出された論文について、事前に示したルーブリックに沿って評価を行う。 産官学連携について、執筆者としてのアイデアを具体的に述べられているに重点をおく。	○	○	○	3
2 学 期	入試スケジュールの作成	自らの入試スケジュールを作成し、より詳細に進路活動をマネジメントできる思考力・判断力を養う。	作成物への取り組み				5
	進路活動スケジュールの見直し ・学生生活の総括	自らの進路活動スケジュールの詰めとともに学生生活の総括を行う。	作成物への取り組み				7
3 学 期	学生生活の総括						7
							合計 31